

平成27年度 新居浜市母子保健連絡協議会 議事録

日 時 平成27年7月10日(金) 13:30~15:00
 場 所 新居浜市保健センター
 出席者 委員 新谷・加藤・中西・佐伯・関谷・高橋・田中・近藤・
 渡辺・尾崎・伊達
 事務局 白石・河野・木戸・宮崎・黒川・片山・明比
 欠席者 加地
 傍聴者 なし

発言者	内 容
事務局	<p>ただいまから、平成27年度新居浜市母子保健連絡協議会を開催いたします。本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>本会議は、「新居浜市審議会等の公開に関する要綱」に基づき傍聴席を設けておりますが、本日の傍聴者はいらっしゃいません。本日の欠席者は、西条保健所 加地課長です。</p> <p>会議に先立ちまして、福祉部長がご挨拶を申し上げるところですが、他の公務と重なり、出席することができませんので、福祉部健康長寿戦略監白石よりご挨拶いたします。</p>
部長代理 事務局	<p>(部長代理あいさつ)</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、平成27年度委嘱換えの年になります。委員の紹介ですが、名簿の順で自己紹介をお願い致します。</p> <p>(名簿順)</p> <p>次に事務局職員の紹介をさせていただきます。</p> <p>(順に自己紹介)</p>
佐伯委員 事務局	<p>引き続きまして、会長及び副会長を選出していただきたいと思いますが、協議会設置要綱第5条により、委員の互選ということになっておりますが、いかが取り計らいましょうか？</p> <p>事務局案はないのですか？</p> <p>事務局では、会長を新谷委員に、副会長を加藤委員にお願いしたいと考えておりますがいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>(一同拍手)</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>会長 新谷委員、副会長 加藤委員に決定いたしました。</p> <p>それでは、会長から就任のご挨拶をお願いいたします。</p>
新谷会長 事務局	<p>(会長あいさつ)</p> <p>それでは、新居浜市母子保健連絡協議会設置要綱に基づき、これからの議事進行を新谷会長をお願いいたします。</p>
新谷会長	<p>それでは議題に入りたいと思います。</p> <p>議題1 話題提供1 妊娠前からの健康管理について、事務局から説明をお願いします。</p>

発言者	内 容
事務局	(妊娠前からの健康管理について 説明)
新谷会長	このことについて、何かご質問はありませんか。
加藤副会長	妊婦さんの風疹ウイルスの抗体がない人が3割というのは全国平均と比較してどうなのでしょう。
事務局	全国平均については手持ちの資料がないのですが、保健所の事業として、妊娠する可能性のある方に無料で風疹抗体検査ができるという事業がありますので、妊娠を考えている女性の方やその家族など、条件はありますが、抗体検査と予防接種を受けていただきたいと思います。婚姻届を出した夫婦などに市民課からもこのような制度があることをお知らせいただき、少しでも風疹にかかる方がいなくなればと考えていますので、市民課とも連携していきたいと思います。
加藤副会長	最近、先天性風疹症候群は出ていないのですか？
事務局	出ていません。
新谷会長	抗体検査の事業というのはどこでしているのですか？
事務局	愛媛県が県の事業として行っています。検査は医療機関で行いますが、希望する方はまず保健所に連絡していただいて条件がそろっているか確認する必要があります。
新谷会長	条件とは？
事務局	年齢制限はありませんが、風疹に罹ったことがない、予防接種を受けていない、今から妊娠を希望するか、などです。
新谷会長	もうひとつ、低LDLコレステロールというのはどういった結果なのでしょう。
加藤副会長	低栄養といえるでしょう。
事務局	健診結果では、若い方のやせが22%と多く、栄養士も栄養不足の方が多くなっているのではと心配しています。出産してからも母乳育児を勧めています。低栄養のために母乳にも影響があり、赤ちゃんが貧血になっているということも耳にします。痩せているのがいいのではないということで、栄養士からもタンパク質をしっかり摂りましょうという話をしています。
加藤副会長	BMIの基準は18.5～25ですか？
事務局	はい。
新谷会長	他に何かありますか？
佐伯委員	若いうちに出産される方は頼もしいですね。先日、妊婦さんが上の子を連れてお散歩をされているところを見かけました。出産直前にもかかわらず元気で良いと思いました。上の子は1歳7か月でしたが、なっていたきゅうりをあげると生のまま食べさせるということで、たのもしさを感じました。
新谷会長	どうしても妊婦の年齢は上がっているの、要フォローの妊婦はしっかり支援し、20代で出産される方を支えていけるようにしたいです。
事務局	では次の議題に移ります。
事務局	議題1 話題提供2 母子健康手帳発行時の妊婦要フォロー者について、事務局から説明をお願いします。
事務局	(母子健康手帳発行時の妊婦要フォロー者について 説明)
新谷会長	盛りだくさんな内容ですが、ご質問やご意見はありますでしょうか。

発言者	内 容
尾崎委員	産後の要フォロー者の基準の設定とありましたが、母子健康手帳を取りに来られた時に介入した保健師さんは、いままではその保健師の判断でフォローかどうかを決めていたということですね。産後のエジンバラのようなもので、産前の質問票などで数値をみて要フォローか判断できるような基準になるものはないのですか？
新谷会長	産前はありません。実は、気を付けなければならない人の中には、妊娠前から心療内科にかかっている方や、すでに内服中の方が多く、私たちも精神科の先生と連携はしています。軽い人はいいいですが、コントロールがきかない人に関しては、医療機関からのフォローだけでなく、保健センターからのフォローが必要だと感じる方もいますが、それをどうするかは難しいところですね。
尾崎委員	子育て支援課としても、たくさん相談を受けるなかで、保健センターと連携しながらかかわっているケースもありますが、産後になってすぐ対応ということになるよりは、産前からかかわりをもっと持つことができればいいのかと思います。
新谷会長 事務局	保健センターで精神的な問題を抱えるかたを把握する方法はありますか？ 妊婦健康相談票の3番にあります。
新谷会長	ここで、どの程度聞いてどう支援するかというところですね。デリケートなところなので、難しいところではありますが、自分から書いてくれるのなら保健センターでもつつこんで聞いていけたらいいですね。あとは、基準は難しいですが、母子健康手帳発行時に対応する人が要フォローか判断できるようにしていけると良いですね。 他に何かありますか？
加藤副会長	妊婦健康相談票のなかに「家族の方は喫煙していますか」があつて、「分煙している」という項目がありますが、「分煙している」は外していただきたいです。この項目があると、分煙ができてから良いと、家族の喫煙を認めてしまう可能性があるもので、「あり、なし、やめた」だけのほうが良いと思います。分煙とは喫煙者が吸う場所を残すためのものなのでアンケートからは外していただきたいです。
新谷会長	保健師のフォロー状況のところで、新生児訪問で確認の人が3分の1くらいいますが、私たちでも産後に心配したときに連絡がとれなくなることもあるので、地域で上手にフォローできればいいなと思います。保健センターだけでは手が回らないこともあるでしょうし、フォローのしようがないケースの場合どうするかが課題ですね。
事務局	新生児訪問の前に、初産ではなく経産の場合は、幼稚園や保育園情報ということで、お母さんとかかわりがある園の先生方の見守りもお願いしたいと思います。特に要保護の方は多産の方が多く、関係機関から情報がたくさん集まることもありますが、訪問に行っても受け入れが悪いケースも多いので、保育園に預けている家庭は、かかわりやすい園からの見守りをお願いしたいです。
新谷会長 高橋委員	保育所などで大変そうな家庭がある場合、妊娠の情報とかは、わかるのですか？ 言ってくれる方もいます。
新谷会長	支援が必要だと思われる家庭で、妊娠がわかった場合は、また大変になることが予想されますよね？その場合は何かしらの方法で情報共有ができればいいのかなと思います。
事務局	妊娠期からの支援ということで、母子の健康管理で訪問をするなど、保健センターはかかわりやすいところかなと思います。
新谷会長	わかった時点で保健センターに相談するのもいいかもしれないですね。 では、次の議題に移ります。

発言者	内 容
事務局	<p>議題1 話題提供3 妊婦歯科健康診査実施状況について、事務局からお願いします。</p> <p>(妊婦歯科健康診査実施状況について 説明)</p>
新谷会長 中西委員 事務局	<p>これについて、歯科医の立場から中西先生なにかご意見ございますか？ 歯肉の状況とありますが、喫煙者と非喫煙者どちらが悪いという結果ですか？ 本来は、歯肉の状況は喫煙者のほうが悪いという想定でしたが、今回のこの2年間の結果では、喫煙者のほうが良かったです。</p>
中西委員	<p>喫煙者の歯肉の状態については、微細血管の状態が悪くなっており、血流量が少ないので、歯肉の腫れがかくれているのだと思います。少し見ただけの簡単な検査なので、出血が少ないというようなことで、単純に見て、喫煙者のほうがよく見えることがあります。実際歯茎の下のところが悪くなっていることが多いので、レントゲンを撮るとひどいことがわかることがあります。そのような結果なのかもしれません。</p>
加藤副会長	<p>歯肉の着色については、わかると思うのですが。喫煙の歯肉への影響について知らない方が検査されると見逃される可能性もあります。可能であれば歯科医師会で基準を設けるなどし、歯科衛生士が見た場合でも医師が見た場合でもより統一した基準で見たいと良いですね。</p>
新谷会長 事務局	<p>4割の方が受診されているということですが、5割を目指すためにも、産婦人科でも周知をしていくのが良いですか？ ぜひ、よろしくお願いします。</p>
新谷会長	<p>たばこについては、若い女性の喫煙が目立つようになっているので、何とかしないといけなと感じています。成人男性は、仕事の関係などもあり、やめた人が多いですね。私たちが最も心配なのは、10代の喫煙です。特に10代の女性はこれから母親になる人たちなので、なんとかやめるようにしなければいけないと思います。吸いだした理由を聞いても、なんとなく、という人が多い気がします。このようなことについて、関谷先生何かご意見ございますか？</p>
関谷委員	<p>小学校で禁煙教室なども実施されているので、子どもたちのほうが、たばこの害などについて知識はあるとは思いますが、吸い始めてしまうとやめられなくなるところはあると思います。吸っている子を見つけたときにやめるように注意するなど、地域ぐるみでやめさせていく、見守っていくかわりをしていかなければならないと思います。</p>
新谷会長	<p>10代の女子の喫煙は将来本当に大きな問題になると思います。母子保健にもつながってくる問題ですね。見ていると、やはり父母がヘビースモーカーなど、家庭環境が問題のことが多いような気がします。吸うことが当たり前になっている中で育っているなど、家庭環境が影響しているところはあるのではないのでしょうか。何とか食い止めることはできないのでしょうか。</p>
加藤副会長	<p>地域ぐるみで支えていく力が必要だと思います。無頓着な家族などによって、小学生から吸ってしまっている子もいます。規則や道徳的な問題というよりは、治療が必要な病気だという考えをもってもらう必要があります。今は、子どもでも治療ができます。子どもはニコチン依存になりやすいですが、短期間で治療が可能です。しかし、再発が多いです。そこを地域で支援していく必要があると思います。最近では、たば</p>

発言者	内 容
新谷会長	<p>こについて口出ししない人が多いので広がってしまうということもあるので、みんなが口に出して注意していくべきですね。その時に、非難するのではなく、支援するという視点をもっていただきたい。たばこを吸うようになった人は、今の日本社会の被害者です。吸わないから関係ないではなく、支援するという気持ちをもって社会全体でその立場 立場でできることを口に出していく必要があります。</p> <p>男性のほうがやめていて、女性のほうが増えているところがゆゆしき問題ですね。</p>
加藤副会長	<p>女性の喫煙率はまだ上がると思います。先進国の傾向として、必ず一度女性が男性を抜きます。それは、たばこ会社のターゲットが若い女性になっているからです。今は化粧品のようにきれいなパッケージのたばこが売られています。若い女性を被害者にさせないようにしていかなければいけません。</p>
新谷会長	<p>では、次の議題に移ります。</p> <p>議題2 平成27年度母子保健新規事業について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(平成27年度母子保健新規事業について 説明)</p> <p>(1) 一般不妊治療費助成事業</p> <p>(2) 幼児の虫歯予防事業「フッ素で子どもの虫歯予防」</p>
新谷会長 加藤副会長	<p>これについてご質問がある方はいらっしゃいますか。</p> <p>フッ素塗布の事業がありますが、知らない人が多いように思います。周知方法はどのようにしているのですか。</p>
事務局	<p>市政だよりに掲載しています。あと、保育園や子育て広場など子どもさんが集まるようなところにチラシを配布して周知啓発していく予定です。</p>
加藤副会長	<p>これは、平日だけですか？</p>
事務局	<p>平日だけです。</p>
加藤副会長	<p>仕事をしているお母さんから休日にもという声がありました。</p>
新谷会長	<p>産婦人科にもチラシを置いてはどうですか？</p>
事務局	<p>ぜひ、お願いします。あと、1歳6か月児健診時に全員に周知しています。</p>
新谷会長	<p>他に何かありますか。</p>
佐伯委員	<p>今日は、妊娠期に焦点を当てた議題でしたが、妊娠期の問題はすべてにつながっているのだと感じました。子どもたちを支援して、妊娠して、というように母子保健の始まりは早くて、つながっているのだなと思いました。</p> <p>せっかく来ていただいているので、お一人ずつご意見をお願いします。</p> <p>佐伯先生お願いします。</p>
新谷会長	<p>いつも妊娠中のお母さんに手を合わせて拝んでいます。日本の国助けてくださいねって。「よかったね」というと、「待ち遠しい」と。なにか子どもを増やす方法はないですかね？</p>
関谷委員	<p>介護も大切だけど、子どもが増えなければ、日本の未来はないと思うので、支援していく必要があると思います。関谷先生なにかご意見ありますか。</p>
関谷委員	<p>普段は障がいをもつ子どもの支援事業をしていますが、早産で障がいというのも多いので、今回の会で、母親の母体の環境を含め、健康な子どもが生まれる環境を整えていくことが大切だと感じました。本人が自分自身で整えることと、周りが支援する</p>

発言者	内 容
新谷会長 高橋委員	<p>ことの両方が必要だと思います。保健センターなどを中心に、支部社協も合わせて地域ぐるみで支援する体制ができればと思いました。</p> <p>高橋先生お願いします。</p> <p>園で、持ち物にたばこのにおいが強くついたり、家庭的に大変なお子さんが、洗濯物を半乾きで使用すると、周りの子から変なおいがする、と言われてしまうこともあります。お母さん方は、外見をきれいにされている方が多いですが、近づいて話す時にたばこのにおいがする方がいて、予想外な方が吸っているという現実を今まで何十件とみてきました。最近हतばこを吸われるのはお父さんよりもお母さんが多いように感じます。私は車の外にポイ捨てるのが許せないので、子どもたちにはごみは自分でちゃんと持って帰って捨てるように教えています。</p>
新谷会長 田中委員	<p>田中先生お願いします。</p> <p>園には10代で出産している方もいて、保健センターとも情報をやり取りして連携してフォローしてきたつもりです。お母さんのできているところは褒めつつ、できていないことのほうが多くても、できた1回をしっかりとほめるような感じで、お母さんの育児能力を高めるようなフォローをしています。最近、若い親御さん、未婚の方など、複雑な家庭にある方が多いのと、保育園だとお母さんは仕事をしながらですが、4人目5人目を産んでおられる方もいて、「お仕事しながら大変だね」というように労いの言葉かけをしています。保健センターとの連携も大事だと思います。</p>
新谷会長	<p>最近感じるのは3人目、4人目を産む人が増えてきている感じがします。流れが変わってきたことを若干感じます。皆さんのおかげで、もう一人がんばってみようと思う人が増えたのだと思います。それは保健センターの保健師さんや周りの方の支援があつてのことだと思います。</p>
近藤委員	<p>近藤先生お願いします。</p> <p>子育て広場ラトルでスタッフをしているのですが、1歳半から2歳の親子がたくさん来られます。健診のことなのですが、5か月児の相談から1歳6か月児健診の間がとて長いので、すすく乳児相談はありますが、お母さんが自ら行かなければ間が空いてしまいます。この間に、困ったことや支援してあげないといけないことが出てくると思います。それをいろんな方の目で見てもらえるような何かがあればいいのかなと思います。次の健診まで待つと半年ある、となった時に、お母さんにどう支援すればいいのかというところがあります。ラトルなどに来てくれればいいのですが、来られない方はどうなのかというところが最近気になるところです。</p>
新谷会長	<p>どこかに行ける人はいいのですが、問題のある方ほど行かない方が多いですからね。</p>
伊達委員	<p>伊達委員お願いします。</p> <p>市長のお話でも、これから人口減少に向けて市が取り組んでいかなければいけないということがありました。初めに新谷会長がおっしゃったように、住みやすい街ということで全国9位に選ばれたことをひとつの励みにしてさらに取り組んでいきたいです。若い人がいないと町としても疲弊してしまうところもあるので、生まれてから学校に行くまでの間の支援を充実していかなければいけないと思います。</p>
新谷会長 尾崎委員	<p>尾崎委員お願いします。</p> <p>子育て支援課では、去年から子育て広場を7か所開設して気軽にお母さんが集える場所として提供しています。出かけることができる方は拠点事業所に行って相談にの</p>

発言者	内 容
	<p>ってもらったり、お母さん方とつながったりしてもらえますのですが、そこに出ていけない人のフォローが大変だと思います。そういったところでは、保健センターとの連携が大切だと思っています。保健センターのほうでも何か掘り起こして、つないでいただいて、また拠点事業所を紹介していただければと思います。また、子育て支援コーディネーターとして妊婦さんから18歳までのお子さんの相談にのる事業も始めました。拠点事業所での相談では一人の方にかかる時間が短く限られてしまいますが、子育て支援コーディネーターは手厚く相談にのって関係機関につないでいけるようなこともしています。また、地域で見守るため、今年度は子育てアシスタント養成講座を始めます。資格ではないですが、研修を修了した方に認定証をお渡しします。近くの公園などで遊んでいる人に声をかけるときの手立てとして認定証をお渡しします。普段、地域で見守ってもらえる体制づくりをしたいと思います。</p>
新谷会長	<p>今、母子家庭や父子家庭が多いですね。そういうところで活躍してほしいと思います。</p>
	<p>渡辺委員をお願いします。</p> <p>母子保健連絡協議会の設置要綱を見てみると、第二項に保健福祉医療の協力支援体制に関することとあって、教育は入ってなかったのだと気づきました。発達支援課が平成22年10月にできて、障がいの方や、グレーゾーンの子を含めて支援をしていくということで、早期発見、早期療育、地域支援の3本柱で始めました。子育て支援を重点に置いており、相談に来ていただいて、子育ての困り感を少しでも解消しながら進めていくというような療育をしています。言葉の教室と、育ちの教室の二つをメインに行っています。去年新規としてしたのは、言葉の教室で全5歳児を対象に保育園や幼稚園に協力していただきながら、全児童をスクリーニングしました。</p> <p>また、保健センターでのこにこクラブからのフォローとして療育を行っています。お母さんの困り感が強かったり、子どものこだわりが強かったりするケースが多く、サポート方法の1つとして、ペアレントトレーニングも行っています。発達支援センターの療育通所者を対象にしており、ほめ方や良い無視の仕方をロールプレイしながらトレーニングしています。これからも、保健センターと連携しながら育児の困り感への支援を行っていきたいです。</p>
新谷会長	<p>白石部長代理をお願いします。</p>
白石部長代理	<p>市では、少子化対策として、多子世帯への支援に取り組んでいます。しかし、10代で大学進学のため転出した人のうち、特に女性が帰ってくる人が少ない現状です。20代、30代の女性がどうすれば帰ってくるのが課題です。母子保健としても産み育てやすい、魅力ある市になるようにしていく必要があると考えます。</p>
加藤副会長	<p>子育てに不安があると、子どもを産む人が減り、そうすると小児科医も減りますし、今のままでは小児科医は増えないと思います。少なくとも救急は産科・小児科の医師の確保が必要で、医師会も頑張っていますが、もっと充実させていかなければいけないところだと思います。市には、中学生までの医療費の無料化を進めていただきたいです。</p>
新谷会長	<p>新居浜市はみなさん一生懸命取り組んでくださっているのです、住みたい町や出生率につながっていると思います。これからも横のつながりを大切にしながら未来を明るくしていけるように取り組みしましょう。</p> <p>以上を持ちまして本日の協議会を閉会いたします。</p>

発言者	内 容
	本日はどうもありがとうございました。